The Center for Early Childhood Development, Education, and Policy Research

乳幼児の「ともに考え、深めつづけること」と「情緒的な安定・安心」を捉えるためのSSTEWスケール

東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター

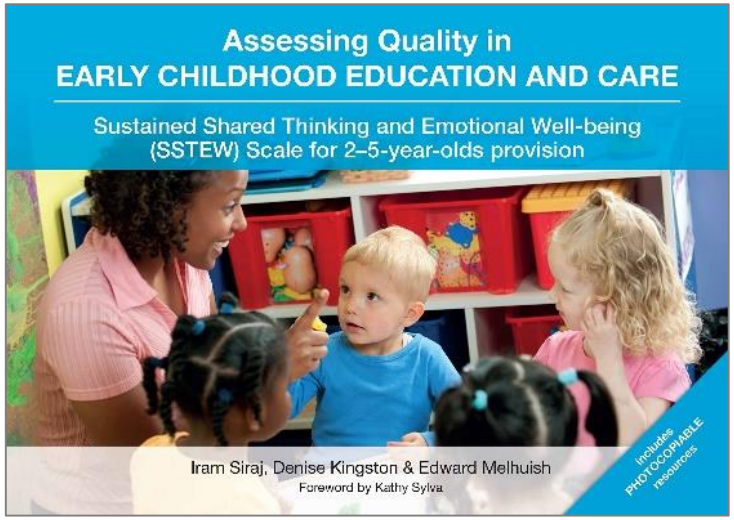
内容

◆SSTEWスケールの概要
◆「ともに考え、深めつづけること」とは
◆日本の保育・幼児教育への示唆

SSTEWスケールの概要

SSTEWとは

「保育プロセスの質」評価スケール
ー乳幼児の「ともに考え、深めつづけること」と
「情緒的な安定・安心」を捉えるためにー

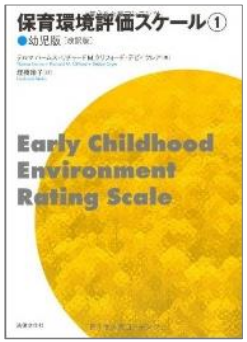


I・シラージ、D・キングストン、
E・メルウィッシュ 著
秋田喜代美・淀川裕美 訳
明石書房 2016年2月

- 保育者と子どものかかわり
- 子ども同士のかかわりを支える保育者のかかわり

保育の質評価スケール
（英国（イングランド）の縦断調査で使用）

ITERS-R / ECERS-R※



構造の質

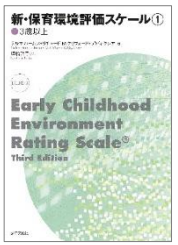
過程（プロセス）の質

子どもの発達

ECERS-E

SSTEW

Early Years Foundation Stage
をふまえた成長発達の評価
（2－3歳時点と5歳時点）

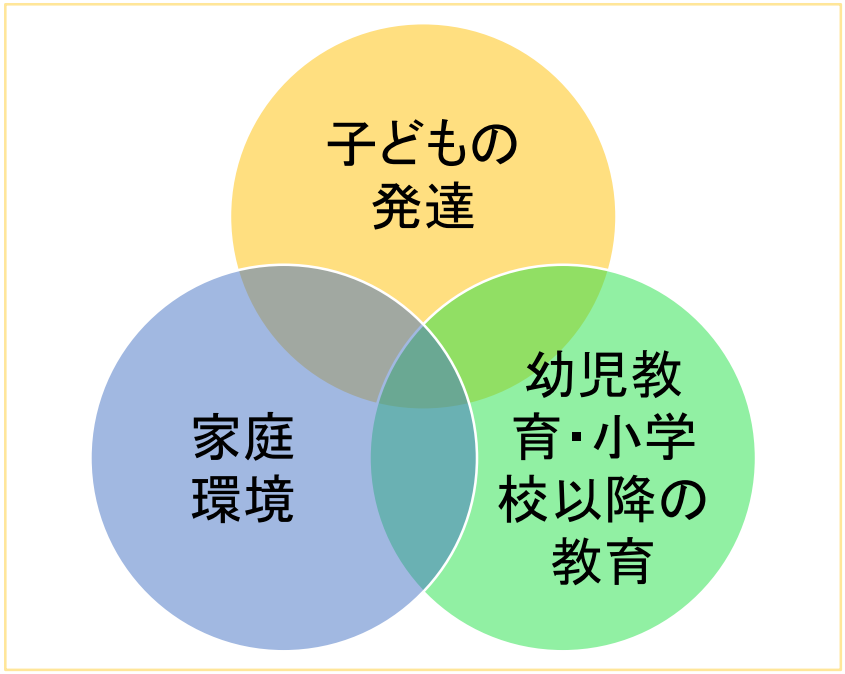


※最新版：ECERS-3

SSTEWが開発された経緯

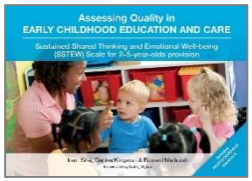
- イングランドの子どもの発達と保育の質に関する大規模縦断調査（EPPE・EPPSE）1997～2004

3歳から16歳まで追跡調査



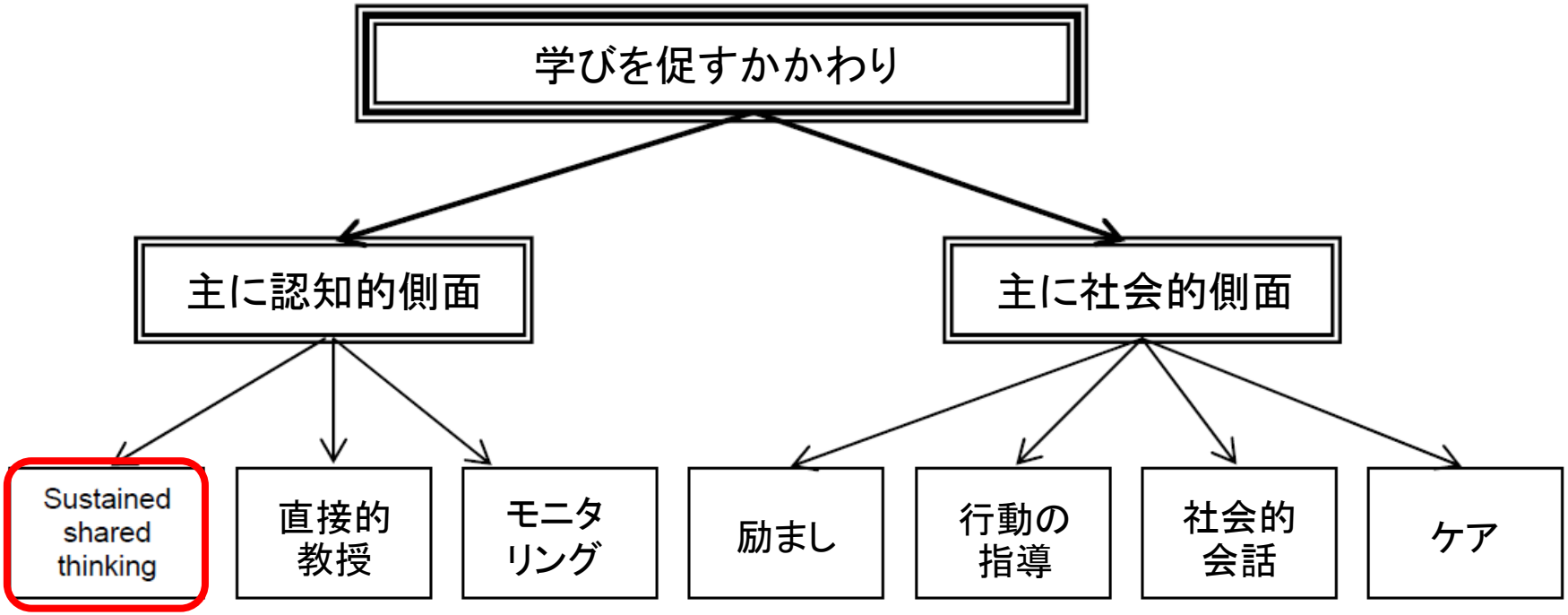
保育の質の高い園の
事例分析（REPEY調査）

- 保育者の**温かく、応答的**なかかわり
- 「**ともに考え、深めつづけること（sustained shared thinking）**」を含む質の良いかかわり



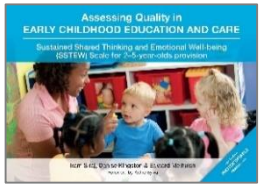
保育者のかかわりを観察・評価するためのスケールを開発

子どもの学びを促すかかわり



（REPEY調査：Siraj-Bratchford et al., 2002）

持続的で共有された思考
→「ともに考え、深めつづけること」



SSTEWスケールの構成

The Center for Early Childhood Development, Education, and Policy Research

5つのサブスケール

コミュニケーション

1. 信頼、自信、自立の構築
2. 情緒的な安定・安心
3. 言葉・コミュニケーションを支え、広げる
4. 学びと批判的思考を支える
5. 学び・言葉の発達を評価する

SSTEWスケールの目次

1 信頼、自信、自立の構築

1. 自己制御と社会的発達
2. 子どもの選択と自立した遊びの支援
3. 小グループ・個別のかかわり、保育者の位置取り

2 情緒的な安定・安心

4. 社会情緒的な安定・安心

3 言葉・コミュニケーションを支え、広げる

5. 子ども同士の会話を支えること
6. 保育者が子どもの声を聴くこと、子どもが
   他者の言葉を聴くように支えること
7. 子どもの言葉の使用を保育者が支えること
8. 感受性豊かな応答

4 学びと批判的思考を支える

9. 好奇心と問題解決の支援
10. お話・本・歌・言葉遊びを通した
「ともに考え、深めつづけること」
11. 調べること・探究を通した「ともに考え、深めつづけること」
12. 概念発達と高次の思考の支援

5 学び・言葉の発達を評価する

13. 学びと批判的思考を支え、広げるための評価の活用
14. 言葉の発達に関する評価

SSTEWで評定をするのは

- 評価をして数値を出すことが第一の目的ではなく、
- 複数名が（あるいは一名が複数回）保育の観察評定を行い
- 互いの評定の結果や判断の根拠（具体的なエピソード等）を伝え合い話し合うことで、
- 観察された保育場面の根底にある保育観や子ども観を語り合い、
- 保育をより良くするための手立てを考えること

「ともに考え、深めつづけること」とは？

「ともに考え、深めつづけること」とは？

…保育者が子どもたちの学びと思考を広げる活動に
積極的にかかわること

二人もしくは二人以上が、
知的な方法で“一緒に”取り組み、
問題を解決し、
ある概念について明らかにし、
自分たちの活動を捉え直し、
語りを広げたりすること。

Sustained
Shared
Thinking

どの参加者も、ともに思考することに貢献し、
思考を発展させたり広げたりすることが大切。

例えば…

原著者が挙げている例：

- 子どもの言ったことの**要点を繰り返す**こと

  「つまり、…と考えているんだね」

- 子どもの**考えを明確化**すること

  「なるほど、〇〇ちゃんは、この石をゆでたら溶けるって思っているんだね」

- **提案**すること

  「こんな風にやってみるのはどう？」

- 子どもが**さらに考えてみるよう、励ます**こと

  「ドアをつける位置は決まったね。よく考えたね。じゃあ、窓はどうしようか」

- 子どもの**判断や選択を尊重**し、子どもが**より考える（工夫をこらす）ように誘う**こと

  「これのこと、もっと詳しく知りたいな」

- **“開かれた質問”**をすること

  「どうやってやったの？」「どうしてこうなるんだろう？」「どう思う？」

原著者らの論文で紹介されていた事例
（2016年3月Denise Kingston氏講義資料より：日本語訳）

事例1：水遊びの場面　（男児：4歳1ヶ月、女児：4歳9ヶ月）

男児　水に浮かんでいる色々なものを見ていて
「見て、松ぼっくりから泡が出てきてる」
保育者　「クルクル回ってるね」
男児　「中に空気が入ってるからだよ」

保育者　松ぼっくりを持ち上げて、ねじりながら、鱗片が
らせん状になっている様子を子どもたちに見せる。
「空気が中から出てくる時に、松ぼっくりを回すんだね」

女児　プラスチックのチューブを使って、水に空気を
吹き込んでいる。
「見て、泡」
保育者　「泡ができるために、何を水に入れているの？
…チューブから何が出てきているんだろう？」
女児　「空気」　（…やりとりは続く）

日本の保育・幼児教育への示唆

- 子ども一人一人とどう丁寧にかかわり、「情緒的な安定・安心」を支えるか
- 子ども同士が互いの声を聴き合い、コミュニケーションを広げていけるようにどう支えるか
- 子ども（たち）の興味や関心、好奇心や探究心、調べること、試行錯誤など探究を、どう支えるか

を考える

◆（イングランドのスケールを通して）日本らしい、自分たちの園らしい「情緒的な安定・安心」、「ともに考え、深めつづけること」とは何かを考える

◆日本独自の保育プロセスの質評価ツールの開発

ありがとうございました